

事業概要

国立環境研究所琵琶湖分室が設置されたことを契機として、共同研究や産学官金連携等による研究成果の活用・実用化を推進し、地方創生を図る。

連携研究

琵琶湖の水・湖底環境の健全性評価に関する調査研究

- ◇溶存有機物や栄養塩類の生物利用性と動態解析
- ◇全層循環停止メカニズムの推定や底層溶存酸素量の変動因子の把握 等

⇒国立環境研究所で培われた新規手法を用いて、水環境、湖底環境の現状を評価し、琵琶湖の環境保全・再生につなげる。

- ◇底泥の酸素消費量の変動メカニズム推定
- ◇全層循環シミュレーションの高精度化 等

在来魚の生息状況に関する調査研究

- ◇在来魚の繁殖・生息場所の解明
- ◇DNA種判別等を活用したモニタリング手法の開発 等

⇒生態系の保全・再生に向けた基礎データの取得につなげる。

- ◇在来魚の分布・移動に関する調査・解析 等

しが水環境ビジネス推進フォーラム研究・技術分科会による技術開発等の推進

- ◇共同研究で活用された技術や研究成果、最新の技術的知見等の情報を共有
- ◇水環境技術の開発等を支援
- ◇滋賀発の水環境技術に係る製品・サービスのブランド化

⇒研究成果の水環境ビジネスへの活用、発信力の強化につなげる。



- ◇研究・技術分科会の運営
- ◇水環境技術ブランド化事業 (プロダクト選定等)の運用
- ◇水環境技術の開発等に係る支援制度(補助金)の運用

実用化を推進

サイエンスエコビジネスの推進に向けた検討

- ◇「サイエンスエコツアー」のガイド等の人材の掘り起こし、育成
- ◇ガイドブックや解説動画の作成
- ◇サイエンスエコツアープログラムの試行、開発

⇒地域の自然資源や環境の保全と活用を両立した経済活動として、サイエンスエコビジネスの推進につなげる。

- ◇ガイド人材等の育成に係る事業の実施
- ◇サイエンスエコツアーのプログラム試行・開発 等



(イメージ)